第35回

# ヨコゼ音楽祭

バンドネオン
三浦一馬
MIURA Kazuma

チェロ
宮田大
MIYATA Dai

二人の名手が織りなす
一期一会の音の世界

## 名曲コンサート

2022 7.24[日]

横瀬町町民会館ホール

開場／15:30　開演／16:00

[ チケット Ticket ] ※未就学児は入場できません

◆ 全席指定　3,000円

◆ チケット先行発売(町民限定)
6月18日(土) 午前9時～より販売開始

◆ 一般発売
6月25日(土) 午前9時～より発売開始

横瀬町町民会館　☎ 0494-22-2267

[ 曲目 Program ]

J.S.バッハ：　ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ BWV.1027 第1楽章
ヘンデル：　オペラ『リナルド』より『涙の流れるままに』
サマー：　Julie-O(宮田ソロ)
J.ウィリアムズ：『シンドラーのリスト』よりテーマ　ほか

主　催／ヨコゼ音楽祭実行委員会　共　催／横瀬町・横瀬町教育委員会
お問合せ／ヨコゼ音楽祭実行委員会事務局(横瀬町町民会館内)
☎ 0494-22-2267　✉ kaikan@town.yokoze.saitama.jp

**【新型コロナウイルス感染症拡大防止についてお願い】**
ヨコゼ音楽祭実行委員会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、コンサートを開催しますので、マスクの着用、検温の実施などについて、ご協力お願いいたします。また、今後の感染状況によっては、内容に変更が生じる場合がありますので、予めご了承ください。

# 名曲コンサート

## 宮田 大 - チェロ -

*MIYATA Dai*

2009年、ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。
スイスのジュネーヴ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。
チェロを倉田澄子、フランス・ヘルメルソンの各氏に、室内楽を東京クァルテット、原田禎夫、原田幸一郎、加藤知子、今井信子、リチャード・ヤング、ガボール・タカーチ=ナジの各氏に師事する。
これまでに国内の主要オーケストラはもとより、パリ管弦楽団、ロシア国立交響楽団、ハンガリー放送交響楽団、S.K.ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演している。
近年は国際コンクールでの審査員や、2019年ロームミュージックセミナーの講師を務めるなど、若手の育成にも力を入れている。
録音活動も活発で、2021年発売の最新アルバムは、ウェールズ弦楽四重奏団、三浦一馬、山中惇史らを迎えた「Piazzolla」をリリース。2020年はギタリスト・大萩康司との初のデュオアルバム「Travelogue」。2019年はトーマス・ダウスゴー指揮、BBCスコッティッシュ交響楽団との共演による「エルガー：チェロ協奏曲」をリリース。欧米盤が、欧州のクラシック界における権威のある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」において、コンチェルト部門(チェロ)で受賞。
マスメディアでも「小澤征爾さんと音楽で語った日〜チェリスト・宮田大・25歳〜」「らららクラシック」「題名のない音楽会」「徹子の部屋」などへ出演している。
使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1698年製A.ストラディヴァリウス“Cholmondeley”である。

## 三浦 一馬 - バンドネオン -

*MIURA Kazuma*

1990年生まれ。10歳より小松亮太のもとでバンドネオンを始める。2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオンの世界的権威ネストル・マルコーニと出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで師事。2008年10月、イタリアのカステルフィダルドで開催された第33回国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝を果たす。2011年5月には別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユーリー・バシュメットら世界的名手と共演し、大きな話題と絶賛を呼んだ。2014年度出光音楽賞受賞。バッハからガーシュウィンまでを編曲・演奏するなど、既成の概念にとらわれない意欲的な取り組みや、バンドネオンの可能性を追求する真摯かつ精力的な活動ぶりが2010年9月NHK「トップランナー」に取り上げられ、再放送となる反響を呼ぶ。テレビやラジオ出演も多数。2007年、井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団、マルコーニ作曲 “Tangos Concertantes”日本初演をもってオーケストラ・デビュー。以後、大植英次指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、アロンドラ・デ・ラ・パーラ指揮東京フィルハーモニー交響楽団、飯森範親指揮大阪フィルハーモニー交響楽団、藤岡幸夫指揮関西フィルハーモニー管弦楽団、高関健指揮京都市交響楽団、井上道義指揮札幌交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢等と共演を重ねている。
2017年自らが率いる室内オーケストラ「東京グランド・ソロイスツ」を新たに結成し、さらなる活動の場を拡げ、2021年キングレコードよりリリース。
使用楽器は、恩師ネストル・マルコーニより譲り受けた銘器、Alfred Arnold。
2021年に放送されたNHK大河ドラマ「青天を衝け」で最後の紀行の独奏演奏を担当した。